

## Ⅸ 特定課題

学校における教育活動のうち、特別支援教育、キャリア教育、地域貢献活動・ボランティア活動、教員研修という4つの特定課題に注目して教員に聞き、現状と今後の取組に向けた課題を把握することにした。

特別支援教育の対応については、相談体制や通常学級を含めた対応の充実に期待が寄せられており、キャリア教育については「希望や目標を持って生きる意欲や態度の形成」を期待している回答の割合が最も高かった。また、ボランティア活動については、教員自らのボランティア活動経験を聞いたが、全体で7割以上の教員が自らボランティア活動に参加した経験を有していた。

### Ⅸ-1 特別な支援を必要とする児童・生徒への対応

「特別な支援を必要とする児童・生徒への対応」について、教員に聞いたところ、LDやAD/HD等の多様な教育的な困難を抱える子どもの増加を背景に、各学校における「相談体制の一層の充実」や、「通常学級を含めた対応の充実」が、高い割合になっている。

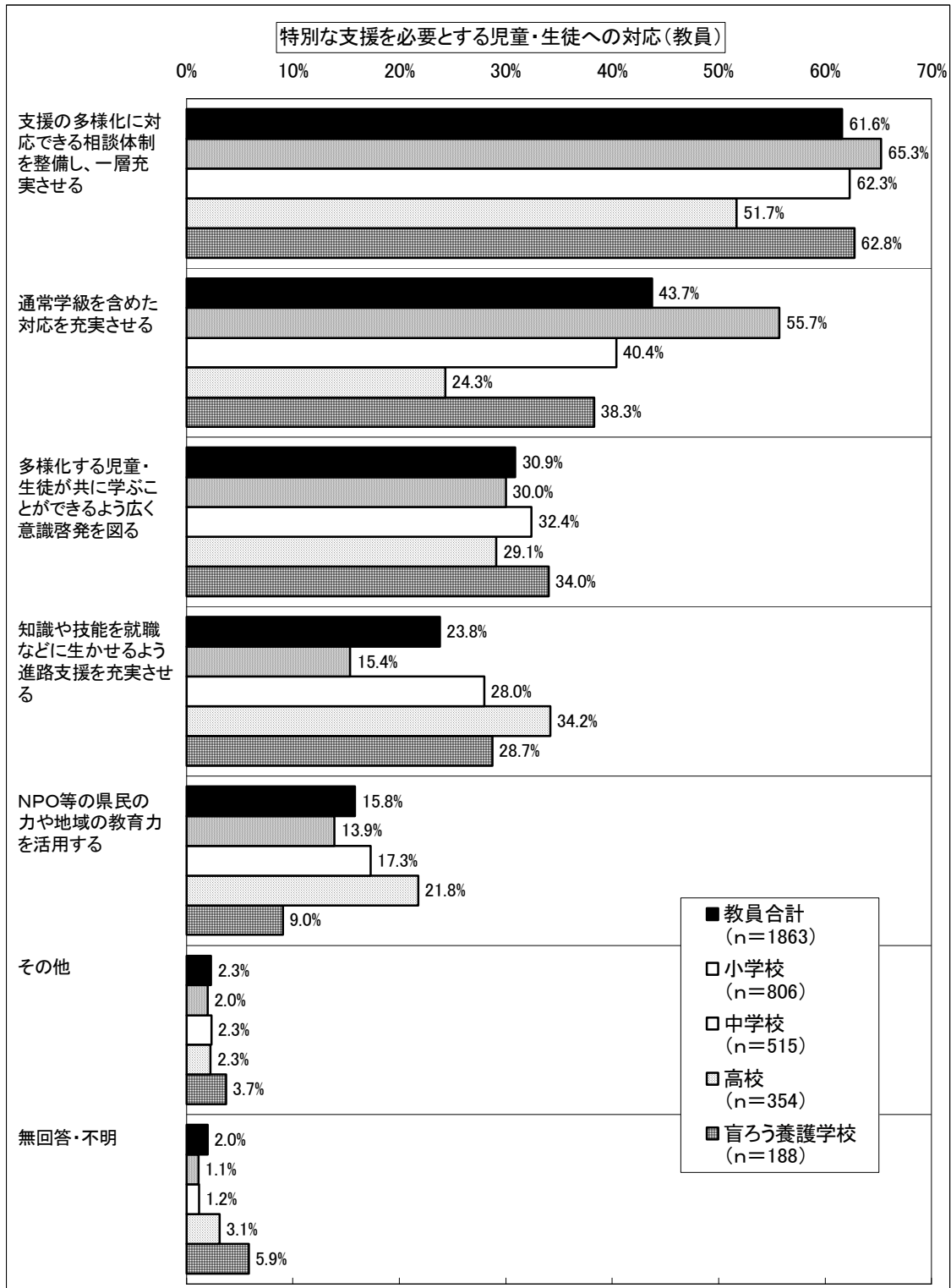
「支援の多様化に対応できる相談体制を整備し、一層充実させる」（小学校65.3%、中学校62.3%、高校51.7%、盲・ろう・養護学校62.8%）がいずれにおいても最も高い割合となっている。

次いで、「通常学級を含めた対応を充実させる」が、小学校55.7%、中学校40.4%、盲・ろう・養護学校38.3%と三者で高い割合となっているが、高校では「知識や技能を就職などに生かせるよう進路支援を充実させる」（34.2%）となっている。（表Ⅸ-1、図Ⅸ-1参照）

表区-1 特別な支援を必要とする児童・生徒への対応 (上位5項目)

	教員(小)	教員(中)	教員(高)	教員(盲・ろう・養)
1位	支援の多様化に対応できる相談体制を整備し、一層充実させる (65.3%)	支援の多様化に対応できる相談体制を整備し、一層充実させる (62.3%)	支援の多様化に対応できる相談体制を整備し、一層充実させる (51.7%)	支援の多様化に対応できる相談体制を整備し、一層充実させる (62.8%)
2位	通常学級を含めた対応を充実させる (55.7%)	通常学級を含めた対応を充実させる (40.4%)	知識や技能を就職などに生かせるよう進路支援を充実させる (34.2%)	通常学級を含めた対応を充実させる (38.3%)
3位	多様化する児童・生徒が共に学ぶことができるよう広く意識啓発を図る(30.0%)	多様化する児童・生徒が共に学ぶことができるよう広く意識啓発を図る(32.4%)	多様化する児童・生徒が共に学ぶことができるよう広く意識啓発を図る(29.1%)	多様化する児童・生徒が共に学ぶことができるよう広く意識啓発を図る(34.0%)
4位	知識や技能を就職などに生かせるよう進路支援を充実させる (15.4%)	知識や技能を就職などに生かせるよう進路支援を充実させる (28.0%)	通常学級を含めた対応を充実させる (24.3%)	知識や技能を就職などに生かせるよう進路支援を充実させる (28.7%)
5位	NPO等の県民の力や地域の教育力を活用する(13.9%)	NPO等の県民の力や地域の教育力を活用する(17.3%)	NPO等の県民の力や地域の教育力を活用する(21.8%)	NPO等の県民の力や地域の教育力を活用する(9.0%)

図区 - 1



## Ⅸ-2 キャリア教育へ期待するもの

近年、注目されている「キャリア教育への期待」について、教員に聞いたところ、「自分の将来に対して希望や意欲を持って生きる意欲や態度」や、「社会の一員としての自覚や責任」の形成が、他と比べて高い割合となっている。

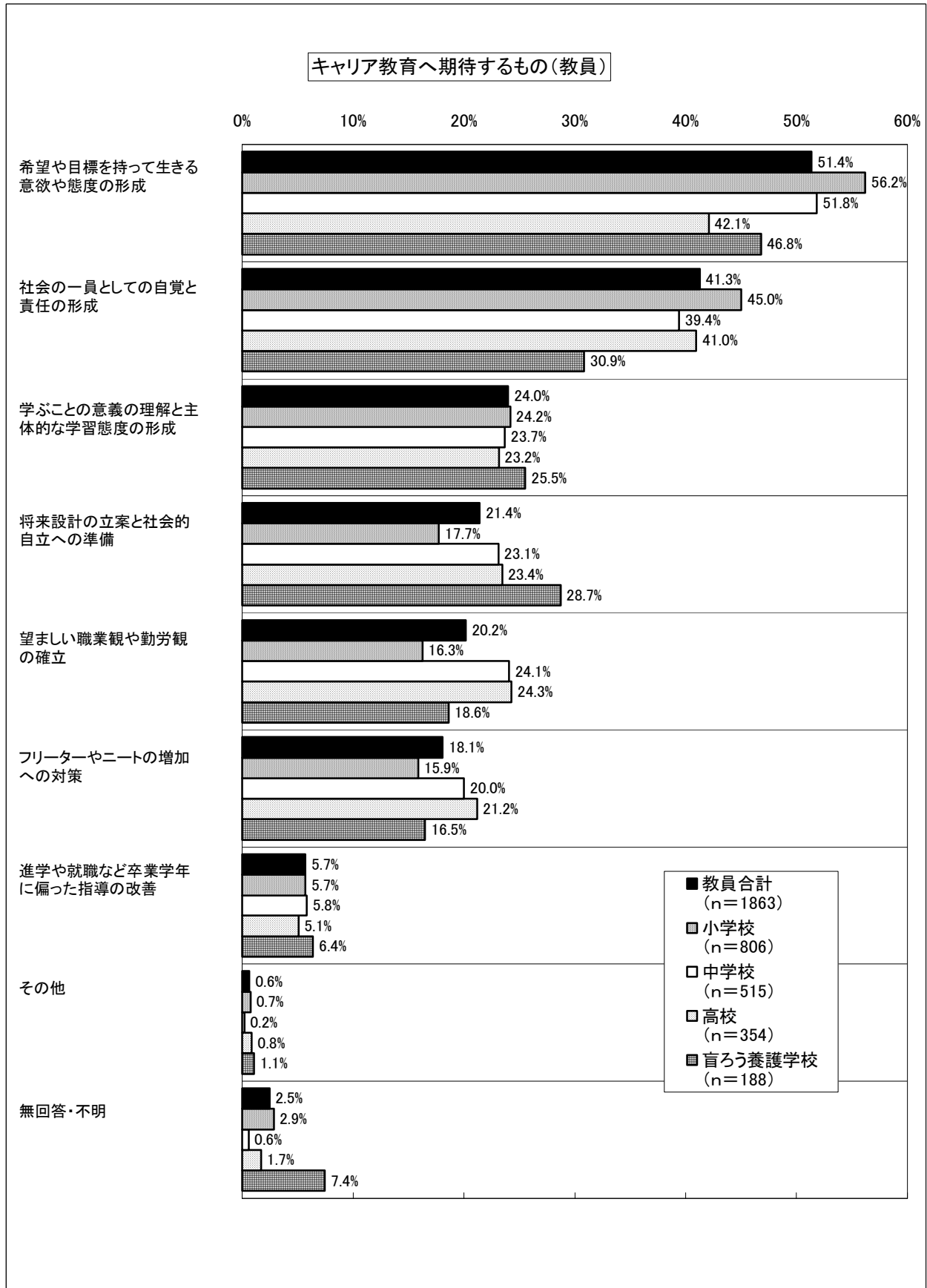
「希望や目標を持って生きる意欲や態度の形成」(小学校 56.2%、中学校 51.8%、高校 42.1%、盲・ろう・養護学校 46.8%) がいずれにおいても最も高い割合となっている。

次いで、「社会の一員としての自覚と責任の形成」(小学校 45.0%、中学校 39.4%、高校 41.0%、盲・ろう・養護学校 30.9%) が同様に高い割合となっている。(表Ⅸ-2、図Ⅸ-2参照)

表Ⅸ-2 キャリア教育へ期待するもの

	教員(小)	教員(中)	教員(高)	教員(盲・ろう・養)
1位	希望や目標を持って生きる意欲や態度の形成 (56.2%)	希望や目標を持って生きる意欲や態度の形成 (51.8%)	希望や目標を持って生きる意欲や態度の形成 (42.1%)	希望や目標を持って生きる意欲や態度の形成 (46.8%)
2位	社会の一員としての自覚と責任の形成 (45.0%)	社会の一員としての自覚と責任の形成 (39.4%)	社会の一員としての自覚と責任の形成 (41.0%)	社会の一員としての自覚と責任の形成 (30.9%)
3位	学ぶことの意義の理解と主体的な学習態度の形成 (24.2%)	望ましい職業観や勤労観の確立 (24.1%)	望ましい職業観や勤労観の確立 (24.3%)	将来設計の立案と社会的自立への準備 (28.7%)
4位	将来設計の立案と社会的自立への準備 (17.7%)	学ぶことの意義の理解と主体的な学習態度の形成 (23.7%)	将来設計の立案と社会的自立への準備 (23.4%)	学ぶことの意義の理解と主体的な学習態度の形成 (25.5%)
5位	望ましい職業観や勤労観の確立 (16.3%)	将来設計の立案と社会的自立への準備 (23.1%)	学ぶことの意義の理解と主体的な学習態度の形成 (23.2%)	望ましい職業観や勤労観の確立 (18.6%)

図区-2



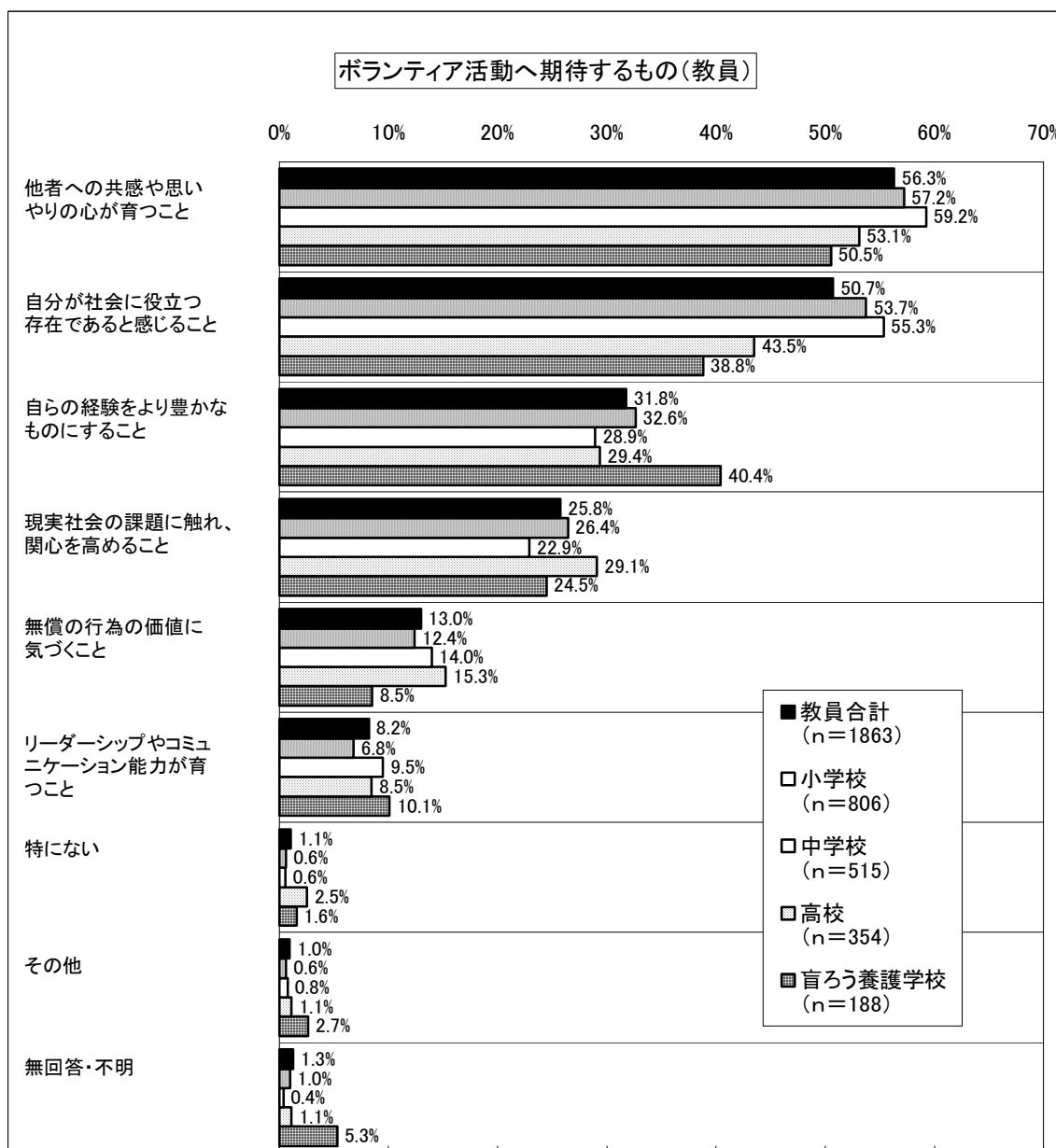
### Ⅸ-3 ボランティア活動へ期待するもの

「ボランティア活動を体験することで、児童・生徒に育まれるもの」について教員に聞いたところ、「他者への共感や思いやりの心の育成」、「自分が社会に役立つ存在であることの実感」が他と比べて高い割合となっている。

「他者への共感や思いやりの心が育つこと」(小学校 57.2%、中学校 59.2%、高校 53.1%、盲・ろう・養護学校 50.5%) がいずれにおいても最も高い割合となっている。

次いで、「自分が社会に役立つ存在であると感じること」(小学校 53.7%、中学校 55.3%、高校 43.5%) が三者で高い割合となっているが、盲・ろう・養護学校の教員では「自らの経験をより豊かなものにする事」(40.4%) となっている。(図Ⅸ-3 参照)

図Ⅸ-3



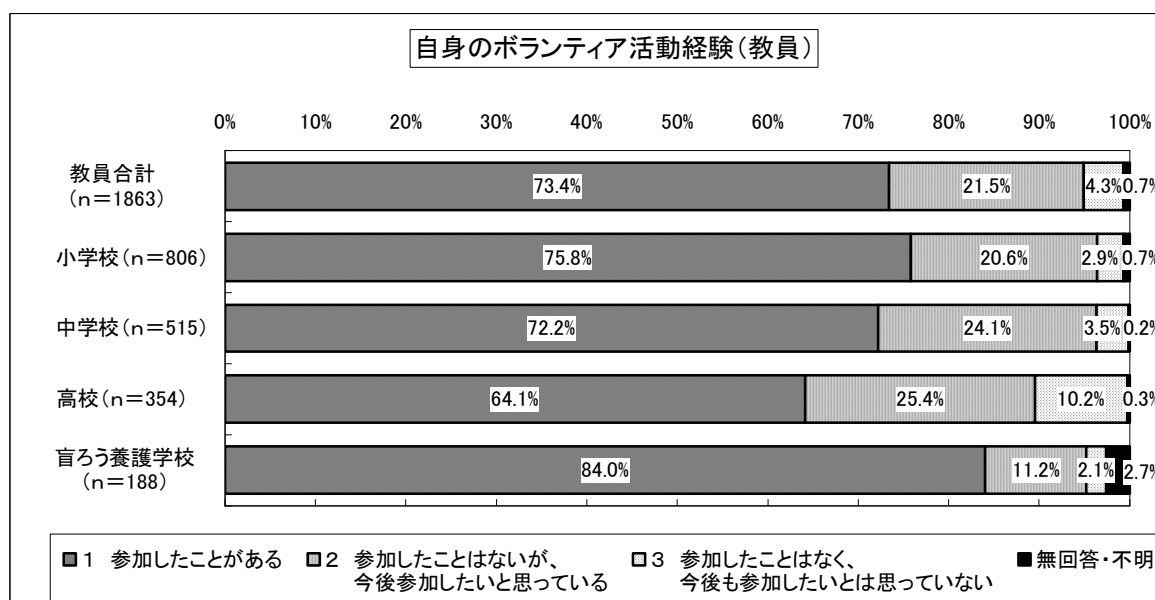
#### Ⅸ-4 自身のボランティア活動経験

教員自身のボランティア活動経験を聞いたところ、全体で7割以上の教員が参加していたが、その一方で、これまで参加した経験がない高校の教員の約1割が、「今後も参加したいとは思っていない」と回答している。

盲・ろう・養護学校の教員の8割以上が「参加したことがある」(84.0%)と高い割合で回答している他、小学校と中学校の教員では7割以上が、高校の教員では6割以上が「参加したことがある」(小学校75.8%、中学校72.2%、高校64.1%)と回答している。

また、高校の教員の約1割が「参加したことはなく、今後も参加したいとは思っていない」(高校10.2%)と回答している。(図Ⅸ-4参照)

図Ⅸ-4



## IX-5 あなた自身のボランティア活動経験の内容について

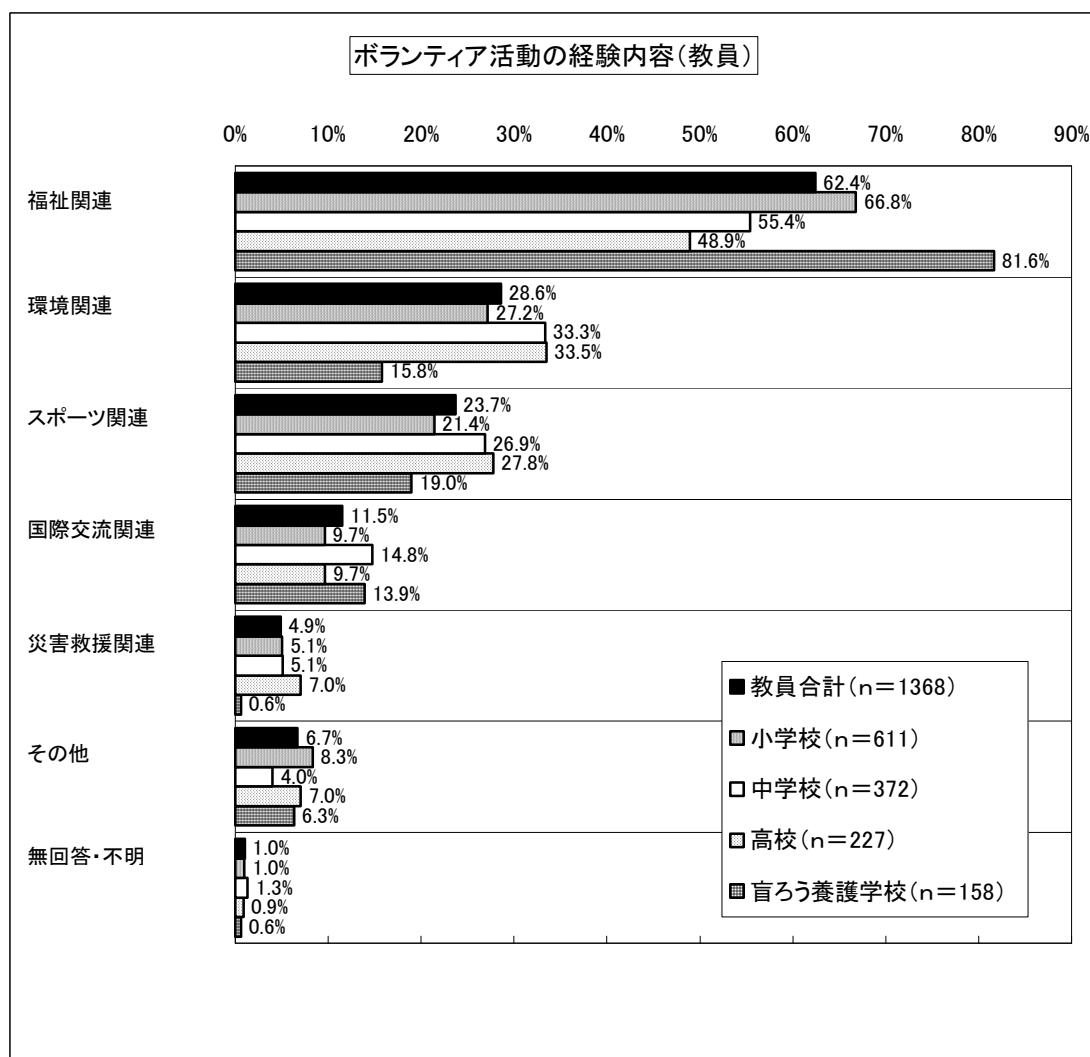
※IX-4の「ある」の回答者のみ

IX-4で、ボランティア活動経験が「ある」と回答した教員を対象に、活動内容について聞いたところ、「福祉関連」での経験を持っている教員が全体の6割以上と最も高い割合となっている。

「福祉関連」は、小学校 66.8%、中学校 55.4%、高校 48.9%、盲・ろう・養護学校 81.6% といずれにおいても最も高い割合となっており、特に盲・ろう・養護学校の教員は他と比べて高くなっている。

次いで、「環境関連」が、小学校 27.2%、中学校 33.3%、高校 33.5%となっているが、盲・ろう・養護学校の教員では「スポーツ関連」が 19.0%となっている。(図IX-5 参照)

図IX-5





## Ⅸ-6 ボランティア活動に参加しなかった主な理由

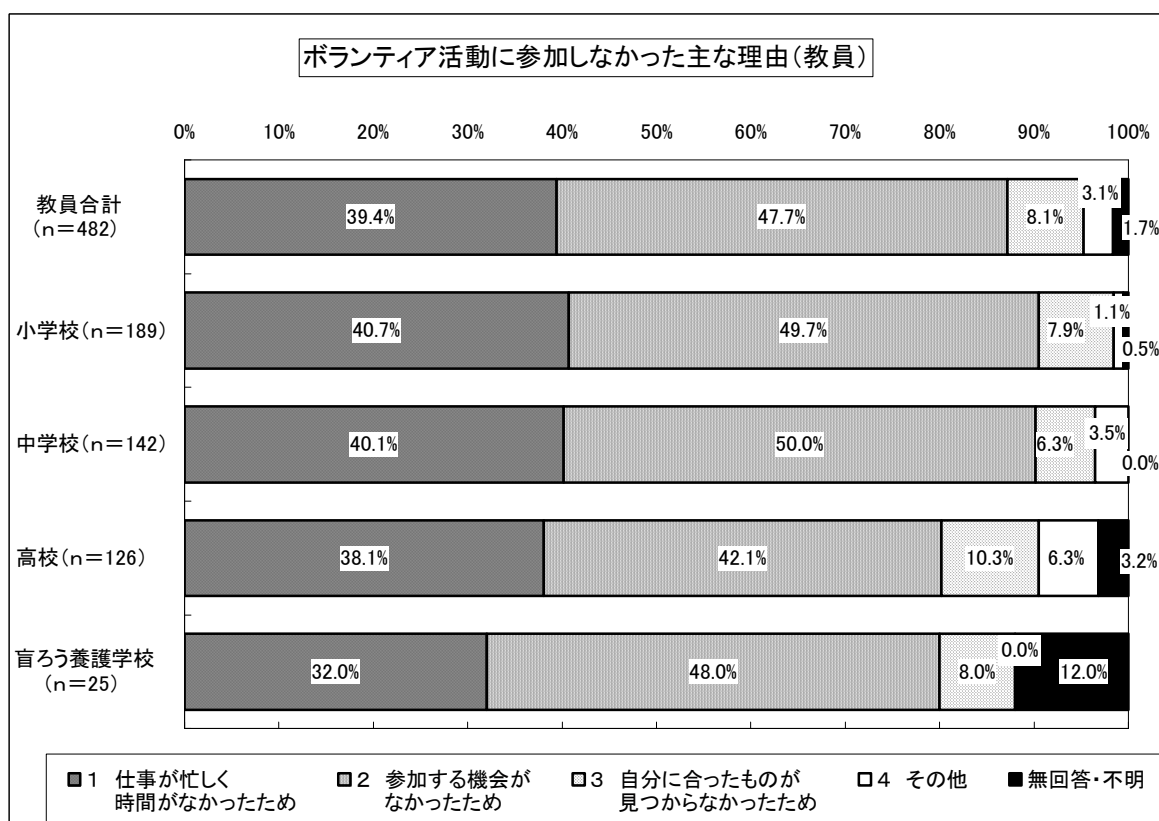
※Ⅸ-4の「参加したことはない」の回答者のみ

Ⅸ-4で、これまでボランティア活動に参加した経験のない教員を対象に、「参加しなかった主な理由」について聞いたところ、全体の5割弱が「参加する機会がなかったため」と回答している。

「参加する機会がなかったため」が、小学校 49.7%、中学校 50.0%、高校 42.1%、盲・ろう・養護学校 48.0%といずれにおいても最も高い割合となっている。

次いで、「仕事が忙しく時間がなかったため」が小学校 40.7%、中学校 40.1%、高校 38.1%、盲・ろう・養護学校 32.0%と同様に高い割合となっている。また、高校の教員では約1割が「自分に合ったものが見つからなかったため」(10.3%)と回答している。(図Ⅸ-6 参照)

図Ⅸ-6



## Ⅹ－７ 現在の様々な教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方

現在の様々な教育課題の解決に向けた「望ましい研修のあり方」について、教員に聞いたところ、全体の6割以上が、勤務する学校が抱えている共通の教育課題に関して、学校内で解決を図っていくための校内研修へのニーズが高いことがわかった。

「学校が抱える共通の課題に応じた校内研修」は小学校 71.6%、中学校 66.6%、高校 52.8%で、三者共に最も高い割合となっている。盲・ろう・養護学校の教員では「学校外で開催される講座や実習などの研修」(58.0%)が最も高い割合となっている。(図Ⅹ－7参照)

図Ⅹ－7

